

地域農業の担い手との懇談会（令和6（2024）年2月7日） 記録

	参加者	ご意見等の要旨
1	認定農業者	○市がこの計画を本気で進めたいならば、まず総合的な計画を提示する必要がある。 ○新規就農者を受け入れるならば、市行政として体制整備が必要。 ○市が、本計画を本気で進めようとしているのか疑問。
2	認定農業者	○経営を第三者に継承することも考えられるので、目標地図の作成は必要。 ○貸し借りを進めていくためには、動機付け・インセンティブについても考えることも必要。
3	認定農業者	○新規就農者の受け入れにあたっては、農地だけではなく、農機具保管庫など周辺環境をどう整えるかも課題。 ○計画の必要性については皆で協議を進めたい。
4	認定農業者	○離農するのか、継承するのかを計画作成するために、白黒つけろというのは難しい。 ○農家が農業しやすい環境について、考えることが必要。 ○大和市の農業をどうするかという中での手法の一つとして、地域計画があるべき。
—	市農政課	●令和7年3月までに、将来的な土地利用について白黒つけるというのは無理だと考えている。 ●しかし、令和7年3月以降、目標地図に表示しなければ貸し借りができなくなるため、まずは現況の貸し借りの状況を地図にする方針である。 ●もし、地図に記載されていない貸し借りが起きたとしても、後から計画変更する対応も可能なので、スムーズに貸し借りできるよう対応していきたい。
5	認定農業者	○若い人が農業をやっているので、農家が、元気が出るようにしていきたい。
6	認定農業者	○認定農業者が規模拡大できるような環境とか、新規就農者が入ってきやすい環境としていきたい。 ○みんなで考えて、大和の農業をよい方向に持っていけたらよい。
7	認定農業者	○「みどりのシステム戦略」を踏まえ、有機ほ場を拡大していきたいと考えている。
8	認定農業者	○計画レベルの話題と、現場レベルでの困りごとや気持ちに落差があるので、農家とコミュニケーションしていくことが必要。 ○農作物ブランド化など、みんなで一生懸命やろうよという環境づくりが必要。
9	認定農業者	○農作物をつくる楽しさを感じており、それが農業を続けられている理由だ。皆がそう感じられるようになっていくとよいと思う。
10	さわやか倶楽部	○地域計画について勉強させていただく。
11	青壮年部	○現在やっている人、認定農業者、新規就農者みんなで大和市を盛り上げられるような計画としたい。
12	青壮年部	○農地を借りたい立場としては、地図によって具体的になって、借りやすくなることに期待する。 ○しかし、貸し借りする双方に、「相手がどんな人か分からない」という不安があって、これが払しょくできないと、貸し借りが進まないのではないかと。

13	青壮年部	○計画はどのように公表されるのか。他地域から参入する農業者の作付けや販売計画など公表して欲しい。
—	市農政課	●地域計画は、だれも見られるものとして公表するが、インターネット等で公表する場合には、個人名については、ABC等の符号で表記する予定。
14	JAさがみ	○この計画では、認定農業者を主体に考えていくものなのか、認定農業者「等」と広くとらえてよいのか。 ○新規の農業者が、どんどん増えていくような農業環境を行政と農協が協力し合ってつくっていけるといい。
—	市農政課	●担い手については、まず認定農業者を、これに加えて、青壮年部、さわやか倶楽部、園芸協会等のJAの各部員を対象と捉えている。 ●農地の売買も、農地の集積・集約化に寄与するものとする。
15	大和営農経済センター	○地域計画は、農地の貸し借りや荒廃地対策、一生懸命やっている農家への後押しとなる。 ○非農家の出身の方の新規就農には、貸す側や周辺農家の不安があり、農協・行政の支援とともに、周りの農業者の理解が必要。 ○有機農法も周りの理解がないと続けづらい。 ○関係者が集まる機会を活かし、みんなで一緒になって取り組むことが、大和地区の活性化につながる。
16	農業委員会	○見直しを前提に策定するのでよい。 ○まず、策定し、現状の耕作者をそこに位置付けておく、その上で、農業者の話し合いの中で、計画変更をしていくことが必要。 ○新規就農者については、周りの協力が無いと継続できないので、ベテランの認定農業者の皆さんに協力いただきたい。
17	農業委員会	○計画をつくるだけでなく、あわせて、少しでも農業経営がうまくいくような、何かを考えていかないといけない。
—	市農政課	●ふるさと納税については、新たな特産物という考えだけでなく、現状の産品であっても返礼品とすることができる。
—	市農政課	●地域計画は手段であり、その具体的な手段として利用権設定や支援制度の活用がある。 ●利用権設定を行うためには、計画が必要なので、市としては計画作成を進めたい。 ●計画作成を、農業の将来や農業経営上の課題、PRなどについての議論のきっかけとしたい。 ●新規就農については、地域として不安があるとのことだが、新規就農者の力も借りる必要がある。新規就農の受け入れには、地域ぐるみで理解・協力が必要とされる。 ●計画をつくることで、課題が解決されるわけではない、随時、計画を見直していくことが必要。